

バチカンに眠る 日本の記憶2022

—— 歴史、美術、音楽 ——

主催：角川文化振興財団 共催：朝日新聞社/上智大学 協賛：NTT データ/凸版印刷/みずほ銀行/KADOKAWA
助成：文化庁/独立行政法人日本芸術文化振興会

公開
シンポジウム
開催!!

ヴェールに包まれていたバチカンと日本の
450年を紐解く公開シンポジウムを開催します!

バチカンには日本に関する未解明の古い史料が数多く存在します。

日本の潜伏キリシタンに関する報告史料、ローマ教皇庁と日本政府との外交関係史料、

昭和天皇とバチカン政府との関係を示す文書など、

これまで未許可だった史料が特別に開示され、新たな発見に至っています。

日時 2022年11/12(土) 10:00~16:40

[9:30開場] (終了予定)

会場 上智大学10号館(講堂)

入場料 3,000円(税込) 定員 先着400名様

※当日のお席は、一部を除き、自由席となっております。

お申し込み 下記サイトよりお申込みください。

https://www.ticketpay.jp/booking/?event_id=41126

お申し込み締め切り 11月11日(金) 23:59

スマホは
こちらから



サイトでのお申込みが出来ない方は下記事務局までご連絡ください。
現金書留にて対応いたします。

電話番号 03-5565-3565(平日10時~17時/土日祝除く)



～公開シンポジウム2022 プログラム概要～

プログラム

第1部

バチカンプロジェクトのいま

講演.1

日本信徒の教皇パウロ5世宛「奉答書」 新発見史料を読み解く

新出史料「フィレンツェ発見文書」と既知のバチカン文書「奉答書」群の関係性の考察

川村信三
(上智大学教授)



講演.2

バチカン・日本の国交樹立80周年の歴史的意義

松本佐保
(日本大学教授)



講演.3

時代と社会をこえる「かたち」 カラヴァッジョ《キリストの埋葬》を中心として

渡辺晋輔
(国立西洋美術館学芸課長)



スペシャル
プログラム

濱田芳通&アントネッロ コンサート

曲目 大いなる秘蹟ゆえ～天主のサントスは来たりて Tantum ergo～Subvenite Sancti Dei (Manuale ad Sacramenta)
花の舞(ファブリツィオ・カロソ) Ballo del fiore (Fabritio Caroso)
おお、栄えある聖母マリアよ(グレゴリオ聖歌)～ぐるりよざ(オラシヨ) O Gloriosa Domina ほか

濱田芳通 Hamada Yoshimichi アントネッロ主宰 指揮／リコーダー／コルネット

我が国初の私立音楽大学、東洋音楽大学(現東京音楽大学)の創立者を曾祖父に持ち、音楽一家の四代目として東京に生まれる。桐朋学園大学音楽科卒業後、スイス政府給費留学生としてバーゼル・スコラ・カントールに留学。リコーダーとコルネットのヴィルトゥオーゾとして国内外にて数多くの演奏活動、録音を行い、海外でリリースされたCDは全てディアパソン5つ星を獲得、高い評価を受けている。2013年バロック・オペラ上演プロジェクト「オペラ・フレスカ」を立ち上げ、指揮者としてモンテヴェルディの3大オペラ《オルフェオ》《ウリッセの帰還》《ポッペアの戴冠》、カッチーニ作曲《エウリディチ》(本邦初演)、ヘンデル作曲《ジュリオ・チェザレ》、レオナルド・ダ・ヴィンチが関わったとされる創作品《オルフェオ物語》(本邦初演)等、オペラ創成期からバロックに至る初期のオペラ作品を取り上げている。一方、戦国時代にヨーロッパから日本へ伝わった南蛮音楽の研究もライフワークとしており「天正遣欧少年使節の音楽」「エンボのハプス」「フランシスコ・サビエルと大友宗麟」等のテーマによりCDリリース、芝居付き演奏会を行っている。著書「歌の心を究むべし」(アルテスパブリッシング) 古楽アンサンブル「アントネッロ」主宰



受賞歴
2005年 第7回ホテルオークラ音楽賞
2015年 第28回ミュージック・ベンクラブ・ジャパン音楽賞(室内楽・合唱部門)
2015年 第14回佐川吉男音楽賞
2019年 第6回JASRAC音楽文化賞
2020年 第50回ENEOS音楽賞 洋楽部門 奨励賞
2020年 第17回三菱UFJ信託音楽賞 奨励賞
2021年 第53回サントリー音楽賞

古楽アンサンブル「アントネッロ」Anthonello

1994年の結成以来、アントネッロは「作品が生まれた時のスピリット」を大切に、躍動感、生命力が備わった、音楽の持つ根源的な魅力を明らかにしてきた。国内外のレーベルからCDをリリースしており、古楽の解釈と演奏において第一線で活躍するグループとして、常にメディアから高い評価を得ている。
—彼らの演奏法は今後流行(モード)となるだろう 仏「レベルトワール」誌
—日本から発信される新しい古楽の潮流 仏「ディアパソン」誌
クラシック音楽の既成概念の枠を超えて純粋に「音楽性」を求めるその企画、作品は、クラシック音楽ファン以外にも注目と共感を集めている。



プログラム

第2部

プロジェクトの成果と展望



バチカン図書館、
文書館の歴史と
日本関連文書
原田亜希子
(帝京大学講師)



バチカン・
欧州文書館に眠る
「日本の夢」
阿久根晋
(日本学術振興会特別研究員PD、
奈良大学非常勤講師)



1620年代の
「日本の葡萄酒」を
めぐる折衝
木崎孝嘉
(東京大学・関東学院大学ほか
非常勤講師)



バチカン図書館所蔵
日本史料がたどった300年
—フランシスコ会と近世初期
東北キリシタンの面影
シルヴィオ・ヴィータ
(京都外国語大学教授、イタリア東方学研究所研究企画代表)

鎖されゆく「日本の扉」とイエズス会日本管区代表司祭 阿久根晋、木崎孝嘉

プログラム

第3部

ディスカッション(質疑応答)

●司会:川村信三(上智大学教授) ●ディスカッサント/清水有子(明治大学准教授)

原田亜希子(帝京大学講師) / 阿久根晋(日本学術振興会特別研究員PD、奈良大学非常勤講師)

木崎孝嘉(東京大学・関東学院大学ほか非常勤講師) / 松本佐保(日本大学教授) / シルヴィオ・ヴィータ(京都外国語大学教授、イタリア東方学研究所研究企画代表)



※シンポジウムの内容は変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

【新型コロナウイルス感染症対策として、下記対策にご協力をお願いいたします】

- 会場ではマスクご着用の上、受付での検温/アルコール消毒にご協力ください。
- 手洗い、うがいの励行をお願いいたします。
- 発熱、せきなどの症状がある場合は、必ずご来場の前に医療機関にご相談頂き、指示に従って指定の医療機関にて受診してください。

詳しくはプロジェクトサイトに
<https://vj100.jp/event/>



公益財団法人
主催:角川文化振興財団

共催:朝日新聞

上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

協賛:NTT DATA

TOPPAN

MIZUHO

みずほ銀行

KADOKAWA

後援:駐日ローマ教皇庁大使館、イタリア大使館、イタリア文化会館、イタリア東方学研究所、カトリック中央協議会、長崎県、長崎市、大村市、五島市、バチカン教皇庁文化評議会

問い合わせ:公益財団法人 角川文化振興財団 〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢和田3-31-3角川武蔵野ミュージアム内 vj100@kadokawa-zaidan.or.jp